

エコバッグからRR

磐田市内小学校

佐藤さん

「6RR県民運動」と書いてある、ナイロンのエコバッグをもらった。ほくの好きな水色だったし、丁度マイバッグがボロボロだったので、大切に使おうと思いうれしくなった。

本を入れたが、10分たらずに手元がほつれ、糸がヒラヒラとれてきた。ぬい目の穴も大きくて、やぶれそう。母さんが「布が弱くてはりが太いと、布まけして穴があく」「ほつれ止めをしないと、どんどん糸が出てきてしまう」と教えてくれた。

次の日、自転車のカゴに本を入れ走っていると、エコバッグのすれた所に小さな穴がいくつもできている。すれた所も、ほつれた糸も、マイクロプラスチックになってしまうと思い、使うのはやめることにした。たった2日とはいえ、ほくの好きな水色で気に入っていたのに、とてもざんねんだった。

エコバッグが無料で配られることが多く、ほくの家にもたくさんある。ナイロンせい、コットンせい、ふしゅくふせいがある。調べていて、無料のものにはけい向があることがわかった。うすくてもろいも

のが多いことだ。

ナイロンせい、ほつれ止めがないものが多かった。生地も弱く、穴があきやすい。

ふしゅくふはボロボロになりやすい。本によると、日光でれっかしやすいそうだ。エコバッグは外で使うものだから、当ぜんれっかする。PPやPSのものは、れっかしてこなのようになり、空気中にちらばってしまう。

かんきょうにわるいことがわかっているのに、もろいエコバッグが多いのはなぜか。

「無料で配るものだから、お金をかけずに大りょうに作れるもの」と思っていないか。

「エコ」ときけばイメージはいいけれど、くり返し使えるバッグでなければ、エコではない。それにただエコバッグを作って配っているというだけで「社会にこうけんしている」というのは正しくないと思う。本当に地球のことを考えるなら、くり返し使える丈夫なもので、マイクロプラスチックにならないよう天ねんのせんで作るべきではないだろうか。

もろう方も、自分が気に入って買ったものなら「おかし」と思っけれど、「無料でもらったもの」「は」しょうがない「ですんでしまう。

そしてかたんにゴミに出せてしまう。直して使おうとまで思えないのかもしれない。

これまでうちは、スーパーのレジぶくろを何度もくり返し使っていた。丈夫なものは十回は使えていた。エコバッグが数回使っただけでゴミになるなら、エコではない。まだレジぶくろの方がましになってしまおう。

もらったエコバッグには「6R県民運動」と書かれている。3Rのところは多いが、6Rの静岡県はすばらしいと思う。だからこそ、このエコバッグから見なおそう。ほくも、いらぬエコバッグはことわったり、そざいや強さをよくかくにんして買うようにしたい。